盆踊に就て

（上）

谷口安比呂

盆踊と言へば平の名物、三日のみならず、一年も休業して呉れた方が宜い。

先づ「やーろヤツタネ」で大分たなぢみなものだが何も申許りが盆踊の專賣ぢやない、幾等も他地方にザラにあるのである。從つて其の手振り節廻しも幾分各地によつて違つてゐる。

然し何んと言つても、松焚の盛觀は磐城獨特のものぢよ。他に見られない。何しろ幾千把と云ふ松薪を街の眞中で而も天も焦さん許り一齊に、焚かうと云ふのだから確かに、昭和の世には珍らしい遺習と言はねば成らぬ。

始めて見た他地方の、神經過敏な政治家達は、或は「不經濟極まる」と難すかも知れない。而し人間は決して物質のみにて生くるものではなく、精神にも達して始めて幸福を感するものであるから、强ち唯物的に一概に不生産的と許り排しまれまい。——即ち年三萬の町民は三日間松焚をする事によつて、先祖の供養なりと信じ、且つ大いに宗教心を滿足さしてゐるので、其れが立派な收穫では有るまいか。如何に無法な者でも此の數百年來の習慣行事を今直ぐ廢めさせる譯には行かない。習慣には法律と雖も、一步讓るべき性のものである。

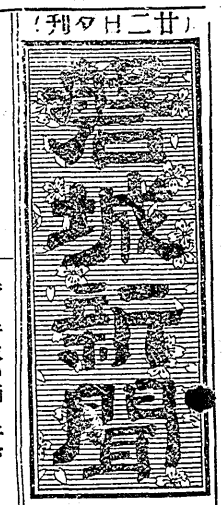
盆踊、地獄の釜の蓋が開くといふ、つまり三日間の休業中である。地獄等は若き靑衣の踊り子がひとり
オトコからの最後の花束を抱いて
泣きじやくりながら
狂つた笑ひをつゞけてゐる
窓なしの部屋
××街に吠えろ××
べらぼうめ
押しちやいけねやな
見ねえのか

假面行進曲

京　不二之介

××退屈な風景××
こゝは居根裏
窓なしの部屋
太陽の亡びたこの夜更けを
踊り子が笑つてゐる
片方のペタルを失つた
古風なオルガンの眠る
退屈な風景の中に
俺のこの墓石が
重たいけど
とても上等なんだせ
××假面行進曲××
ひろびろとした野つ原を
のたうちまはる古い影
飾られた生活の舊踏場へ
まるで
ならべられた圓本のやうな
正裝と
ひきづりこまれる新しい影
いま
虹を生める蒼空の下に
大いなる男女の
裸形の群れが
影と影をすりよせて奏でる
假面行進曲に引きづられて
華麗なる行列が
火を背よつてゆく

一九二八、八



休刊　大祭第一、第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢）
廣告料（二行辛錢指定辛錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

（廿二日夕刊）

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

慕末秘帖　狂怒乱心

（23）　渡邊默禪作

宮野　啾春畫

「小癪な奴ツ！それ方タッ双方騎虎の勢、引くに引かれぬ羽目こまで乘り揚げつた。激した波の礁を拍つがごとくどちらか碎けるまでは衝突を續けるのである。殺伐橫溢蹶として庭の砂を捲き揚ぐる一陣の風。

わッとときが起つたが、むづと突房し、押除けて一步も踏み出させぬ。

逃り立つ決死の若者五六人、岩に堰かれた潮の如く奔流して殺と左右に分れた。

「兄貴、出ちやア不可ねえ」

「引込んでくれ〳〵」

と顏を見ると仲間の二三人が慌てゝ注意した

「やい梅、何だつて止めやがるんだ、手前の爲に大衆が命を投出して庇つて遣つてるんぢや無いか、痴ツ、何故、そんな行爲をしやアがる」

「まア、何でも可いから鎭まつて呉れ梅の顏だ、後生だから控へて呉な、たい、ツてわからその用を聞いた上で如何とも爲まさアる」

梅は前へ進んで來る者を無造作に答へて梅はくるりと浪士の方を向いた

「そこ迄言つて呉れるのだ、君等も共にどり一つ活潑に若き生を享樂せずに何が青春だ、一つ活潑に若き生を享樂せずに何が青春だ、へつたら何うか。

（つゞく）

▲一白　忍耐が肝要なる日
▲二黑　人の事につき間違ひ失費多し差控ふべし
▲三碧　人より申込まるゝ事は成るべく避けるが安全
▲四綠　輕率なる時は失敗を招く殊に商事は尤も注意
▲五黃　急激の變化を生じ易き日細心の注意を要す
▲六白　運氣未だ十分ならざれどもはげめば功ある日
▲七赤　人言を容れ妄動を愼む時は大に發展すべし
▲八白　平和を主とすれば諸事順調に運ぶ
▲九紫　午前は大吉なれど午後は何事も手控すべし

七月八日　明日　暦月新月二日　吉凶　蔕九暦三日

講談

秘蔵の新盆

からうと思ふ。——其りやるのだ、君等も共にどり徹笑に和ぎ、一つ活潑に若き生を享樂せずに何が青春だ、一つ活潑に若きへつたら何うか。

（つゞく）

▲一白　忍耐が肝要なる日
▲二黑　人の事につき間違ひ失費多し差控ふべし
▲三碧　人より申込まるゝ事は成るべく避けるが安全
▲四綠　輕率なる時は失敗を招く殊に商事は尤も注意
▲五黃　急激の變化を生じ易き日細心の注意を要す
▲六白　運氣未だ十分ならざれどもはげめば功ある日
▲七赤　人言を容れ妄動を愼む時は大に發展すべし
▲八白　平和を主とすれば諸事順調に運ぶ
▲九紫　午前は大吉なれど午後は何事も手控すべし

講談

慕末秘帖　狂怒乱心

（23）　渡邊默禪作

宮野　啾春畫

「小癪な奴ツ！それ方タッ双方騎虎の勢、引くに引かれぬ羽目こまで乘り揚げつた。激した波の礁を拍つがごとくどちらか碎けるまでは衝突を續けるのである。殺伐橫溢蹶として庭の砂を捲き揚ぐる一陣の風。

わッとときが起つたが、むづと突房し、押除けて一步も踏み出させぬ。

逃り立つ決死の若者五六人、岩に堰かれた潮の如く奔流して殺と左右に分れた。

「兄貴、出ちやア不可ねえ」

「引込んでくれ〳〵」

と顏を見ると仲間の二三人が慌てゝ注意した

「やい梅、何だつて止めやがるんだ、手前の爲に大衆が命を投出して庇つて遣つてるんぢや無いか、痴ツ、何故、そんな行爲をしやアがる」

「まア、何でも可いから鎭まつて呉れ梅の顏だ、後生だから控へて呉な、たい、ツてわからその用を聞いた上で如何とも爲まさアる」

梅は前へ進んで來る者を無造作に答へて梅はくるりと浪士の方を向いた

古田眼科醫院

にやアそれこそ犬のお交際で犬死だなア、大衆、濟まねえがコウ梅の顏を立てゝ道らうと思つたら柔順しく手を引いて呉んな」

義理明白、いかにもその如くである、情に激して一時は狂ひ立つたけれども悟つて見ると無意味の爭鬪だ數十の健兒轡をはめられた悍馬のやうにはかに鳴鏑めて揮り上げた庖刀を伏せたにのれ、もの〳〵しや！五人の浪士は火見櫓を後楯に縱線を描いて突立つた。早襷の袴の股立高くからげて目釘を濕しつゝぢりゝと足を開く。

危機一髮—屋敷の主人圖れるソノ親切は有難えが、書助は生憎他出中、留守居は老人と若侍三四人ばかり下役の與力同志の小屋へ駈んな、ぐわねんは火を消すのが役目、火事場でもつて怪我をする程働いたんなら公儀へ御奉公にも手柄にもなるが、こんなケチな野郎一疋に義理を立て大事な躰を棒に振つたんぢやア第一公儀や御屋敷へ對して濟まねねこツて、ぐわえんの名の前に大手をひろげ必死と開にもなりやアしねね、そなつて遮り止める漢子があれも最う些と小氣の利いた喧嘩の相手なら知らねえこと、這麼犬侍」

と後方をふりかえつて「の手に縋つて死了つた日にどんと突當る途端はたりと將棋倒し
「あツ痛え」
と妙を掴む
「頭！」と梅は呼んで
「私の爲に大衆が立引て呉
と叫聲が起つた。その下から蕭然と庭へ躍り出して

亡妻トク

本年新盆ニ相當リ候ヘ共提灯其ノ他ノ御惠贈乍失禮辭退仕候

搔揃小路
草野廣吉

亡女カメヨ

本年新盆ニ相當リ候モ提灯其ノ他ノ御寄贈ハ乍失禮辭退申候

柳町
太田安治

亡き妻の新盆

に當りましたが御惠贈の有無も判らぬ所で御遠慮申すも異なものなれど新盆の供養は鄕里で致します私は只心の中で在りし昔を偲ぶのみです、隨つて提灯其他の御惠贈は乍失禮御斷り申します

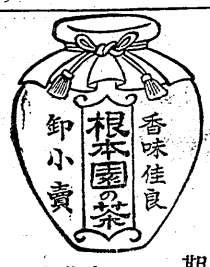
平町搔揃小路
鈴木盛之助

移轉御披露賣出し

小賣五十錢以上の御客樣に

景品進呈仕升

期間　八月廿一日より　舊七月七日　九日間



お盆の御贈答には香味優良評判の良い根本園の御茶を御使用の程願上ます
◎特に良品を卸小賣で大々勉强仕り候
◎煎茶壹斤五十錢より箱入四十匁廿錢より
美術上等蒔繪茶筒詰一個廿錢より各種
平町四丁目農銀横
家庭はふじ茶
發賣元　根本園茶舗

中元贈答品

として必ず皆樣の御滿足を得る品は
◎タオル箱入　三本
　　五本
◎敷布箱入
◎晒下
◎縮シヤツ
◎半布箱入
◎ツルヤノ特價石鹼
商品券の御利用は最も便利です

ツルヤ

砂繪呪縛大會

御熱望ノ

名映畫再上映

謝恩最終大興行

◇朝日新聞連載小說◇日活超傑作品
河部五郎、南光明、金子弘、石川貫治主演

砂繪呪縛

◇第一篇、第二篇、第三篇全部上映◇名作ノ持つ物語りと映畫の有する藝術表現の極致とが相融合して生み出された不朽の傑作……その監督手法に……その名優の神技に……また又壯麗なるセットにあらゆる條件を滿たして餘りある完全無缺の作品なるを以つて全世界に誇るべき映畫

◇日活現代派作品◇
クロース　金
ワード　成

◇日活のカボちん專　小泉嘉輔主演

◇普通席　金十錢
◇土日曜日學生デー
廿二日より　常設　平館電四六六

開業披露

各位の御奬めにより

洋食部開業

▽コツクは東京から一流の
▽原料は特に精選吟味
やぶそばと同樣多少に不拘御用命を乞ふ

食堂完備—配達迅速

二十二日開業

平町新田町
やぶ洋食部
電話一四一番

片倉磐城製絲株式會社募集

◉株式募集要項

資本金總額　金貳百萬圓
壹株ノ金額　五拾圓
募集株數　壹萬株
申込株式單位　貳株以上
申込期間　昭和三年七月廿五日ヨリ九月十日迄
申込證據金　各壹株ニ付金貳圓五十錢（第一回拂込金ニ充當）
第一回拂込金　各壹株ニ付金拾式圓五十錢
第一回拂込期日　昭和三年十月十五日迄トス
拂込ノ方法　後記ノ通リ銀行及會社
募入決定方法　應募株式ガ應募株式ニ超過シタル場合ハ發起人ニ於テ適宜處定ス

片倉磐城製絲株式會社
創立委員長　片倉兼太郎
發起人　一同

申込取扱所及拂込個所
株式會社福島縣農工銀行平支店
株式會社平銀行本支店出張所
東京　片倉製絲紡績株式會社
郡山市　同社岩代製絲所
定款目論見書株式申込用紙ハ取扱所又ハ創立事務所ニアリ

創立事務所（元郡役所內）
石城郡養蠶同業組合事務所

健康第一
健康は胃腸から

木ノ胃腸藥

クスリはホシ
星製藥株式會社
東京・大阪

來る十月七日に
町民体育大會
御大典奉祝方法その他を
平青年團の決議

平町青年團では今秋擧行さるる町民体育大會は來る十月七日に開催技競方法其の他第一るる縣國の盛典奉祝方法其の他の協議の爲め昨廿一日一回通り平町各區から選手三時頃夏井川磐城炭礦發電所排水門附近で水泳中衣類一名を召集しを出場せしめ東日寄贈の大平第一校に幹部會を共に置いたクローム皮腕各種の協議をなす處ろあつ中央に於ける優勝旗爭奪戰を行ふ事に決たが決定事項は次の如くで定したある

△御大典記念事業
イ、記念殖樹をなす
ロ、青年團所屬圖書館整理
△縣社子鍬倉神社祭典奉仕
イ、各分團からは分團長及旗手二名參列する事
ロ、神輿渡御に奉仕希望の分團は來る廿五日まで届出る事
△青年團資金增殖
九月廿日前後に活動寫眞會を催す事
△郡聯合体育大會に代表選手出場の件
何ほ昨年度から平町年中行事の一として生れた平町加に努める筈であると他に關し昨廿一日午前十時後の飛躍を計るには共同出

勿來取引所の
繭好績
廿七日に開所

勿來町繭取引所では來る廿七日から秋期繭の取引を開始する事と決定目下開場準備に忙殺されてゐるが同取引所の郡南方部に於ける取引成績は頗る優秀なもので今春繭の總取引額は一萬四千俵貫此の立替金八萬三千餘圓に達してゐるが同取引所は今後全力を擧げて郡南方部の養蠶奬勵と取引數增加に努める筈であると

赤井村の果樹組合
共同出荷の新方法
出盛期を前にして
喜ぶ郡當局

郡下産業業組合中最も優良一時から同村實持寺に郡農な成績を上げてゐる赤井村會大山技市、稻田農試分場の赤井果樹組合大倉果樹組長等を迎へて聯合協議會を合、西小川果樹組合の三組開催協議の結果今や東都市合では愈々梨の出盛期が近付いて來たので同方法其上げてゐる同村産の梨實今も尚地方に於てこれを補よ郡

農會でも この機々逸の工費を要するを以て災害

石城
名所めぐり（六）
慶長より戊辰に至る
窪田と平郊外

△窪田陣屋址
窪田村大字窪田にあり此の地文明己亜年より窪田山城守の領地たり、その子貞盛府領となり幕府代官を置き管治す、享保十三年奥州の領主たりしが元龜二年常陸の國佐竹義重の所領となり、文祿四年佐竹氏の檢地林一移さる、同年小笠原能登守の所領となる、文化十三年松平氏肥前唐津に移さ同年岩城貞隆羽州龜田に移さる、同七年鳥居忠政の所領となる、天保七年井上氏上州舘林に移されしが元和八年羽州山形に移さる、同年土方掃部ば同年松平周防守の所領と

頭　所領となる、その子雄次、その子雄隆子なし王和三年に幕府に歸し十一月廿八日磐前縣で改稱するに當りその所轄たりしが二年棚倉縣の所轄に屬し、四年棚倉縣の所轄たり、同年七月十四日平縣治の初年頃迄では山上に老神社南端にありて古館跡そ地文明己亜年より窪田山城守の領地たり、その子貞盛府領となり幕府代官を置き管治す、享保十三年奥州の領主たりしが元龜二年常陸の國佐竹義重の所領となり、文祿四年佐竹氏の檢地林一移さる、同年小笠原能登守の所領となる、文化十三年松平氏肥前唐津に移さ同年岩城貞隆羽州龜田に移さる、同七年鳥居忠政の所領となる、天保七年井上氏上州舘林に移されしが元和八年羽州山形に移さる、同年土方掃部ば同年松平周防守の所領と

と稱し壘堡を築きし石の堆法號を道山といふ、後松樹より遙かに之を望めば一帶熱夏の候殊に能く風致を粧第二次採種圃用の種子をしかば十四年井上河内守して夏井川の清遊を弄び卿して赤井、二箇、湯嶽ノ諸山公始めて此の地を領するや を望まば天然の妙趣轉た化高丘あるのみ、近時村民此ば地を開拓して公園となせり

△道山林
神谷村大字鎌田にあり平町鎭岡の諸部落西北に星散す大堤の如し、古彌生山と稱し夏井川の清遊を弄び卿して赤井、二箇、湯嶽ノ諸山公始めて此の地を領するや を望まば天然の妙趣轉た化高丘あるのみ、近時村民此ば地を開拓して公園となせり

△古舘址
窪田村大字關田の西南にあり平町鎭岡の諸部落西北に星散す大堤の如し、古彌生山と稱し夏井川の清遊を弄び卿して赤井、二箇、湯嶽ノ諸山公始めて此の地を領するや を望まば天然の妙趣轉た化高丘あるのみ、近時村民此ば地を開拓して公園となせり

△道山林
神谷村大字鎌田にあり平町鎭岡の諸部落西北に星散す大堤の如し、古彌生山と稱し夏井川の清遊を弄び卿して赤井、二箇、湯嶽ノ諸山公始めて此の地を領するや を望まば天然の妙趣轉た化高丘あるのみ、近時村民此ば地を開拓して公園となせり

△古舘址
窪田村大字關田の西南にあり平町鎭岡の諸部落西北に星散す大堤の如し、古彌生山と稱し夏井川の清遊を弄び卿して赤井、二箇、湯嶽ノ諸山公始めて此の地を領するや を望まば天然の妙趣轉た化高丘あるのみ、近時村民此ば地を開拓して公園となせり

信用第一主義
事業と人……（六）
鈴木支配人の努力嚴然と
磐城實業銀行

地方經濟界未曾有の大動亂銀行と姉妹關係にあつただけに磐銀の休業と共に社會の木源藏氏の手腕と力量との想像は實業銀行の危機を傳へたのである、

一流　銀行の破綻が卸す、明後日から休業するなどと途方もない噂は噂を現村會議員の榮職を贈つて會つて同村收入役たりねる中堅の有力家である、氏の經濟的手腕と實直精勵とは實銀の人となつて益々光彩を放ち先年支配人に昇格した前途有爲の少壯實業家である、今試みに實業銀行の預金者側の言を聞くと

專務　鈴木辰三郎氏の信望の然らしめしものたること勿論であるが直接行務一切を切り週する支配人鈴木源藏氏の手腕と力量との賜もの であるを認めない譯けには行かない、鈴木支配人は本郡高久村の資産家にして會つて同村收入役たりねる中堅の有力家である、氏の經濟的手腕と實直精勵とは實銀の人となつて益々光彩を放ち先年支配人に昇格した前途有爲の少壯實業家である、今試みに實業銀行の預金者側の言を聞くと

人たる馬目太平氏が頭取下あり、氏をめぐる

專務　鈴木辰三郎氏の信望の然らしめしものたること勿論であるが直接行務一切を切り週する支配人鈴木源藏氏の手腕と力量との賜もの であるを認めない、故に預けには行かない、鈴木支配人は本郡高久村の資産家にして會つて同村收入役たりねる中堅の有力家である、氏の經濟的手腕と實直精勵とは實銀の人となつて益々光彩を放ち先年支配人に昇格した前途有爲の少壯實業家である、今試みに實業銀行の預金者側の言を聞くと

人たる馬目太平氏が頭取下あり、氏をめぐる

多角的の經營法で
農村の救濟策
今年の惡氣候に懲りて
石城農村の覺醒

石城郡農會では農村の振興は農業經營の宜しきを得ざれば達成し難しと云ふ見地から多角形農業經營の長所があり從つて多角形農業經營にあつては例令一方う作柄が失敗しても尚地方に於てこれを補よ郡

石城郡農會では農村の振興は農業經營の宜しきを得ざるその特長を發揮し得るため農村の疲弊は或程度までに基き經營することゝなるべく從つて將來の同郡には最も理想的農業經營が實現されるものと見られる

小川堰を改修して
五百町歩を救ふ
錦村外一町一ケ村の
永年懸案實現

石城郡錦村外一町一ケ村小川堰水利組合二十年來の懸案となつてゐた小川堰改修工事は漲溢耕地面積四百十一町三段六畝の廣汎な田區に普及される相當の好成績を擧げ得るものと各方面から多大の期待を受けてゐる

共濟委員會議　濱通り地方共濟委員の調査打合會は今廿二日午前十時から舊石城郡役所跡に於いて開會した

石城郡農會の
三年度原種
各町村に配布

石城郡農會では地方産麥作の改良を計る爲め各種の研究を續けて居たが左記の原種が地質其の他本郡地方に最適なものである事判明したので三年度の原種を採り第二次採種圃用の種子をなどが行はれ而も年と共にその傾向が甚だしくなつて從來これによりぼろい利益を收めてゐた一部の商人が

盆提灯の嘆き
申合せた樣に惠贈辭退
平町地方の風潮

石城地方舊來の風習として新盆に相當する親戚知己へ提灯を贈ることは永く行つて來つたが諸事節約と虚飾廢止の風潮はひいてこの方面にまで影響し數年來舊前の一つとして町村内にある神社の中無資格社、村社、郷社に對して昇格方を稟申請したので目下調査中であるが御大典の記念事業として神社の昇格を行ふこと

捕鯨引續豊漁
石城郡小名濱の東洋捕鯨會社では引つゞき豊漁を見せ去る十七日夜は長さ四十五尺と三十五尺の大もの各一頭を捕獲したが何れも同町の磐城水産工業會社ににくつて鯨の解詰を製造してゐる

△宮城六角二號七斗五升
△關取三號　一石五斗
△五瀨四國　一斗一升
△品川達磨　四斗二升
△白襷二號　一斗四升
計二石九斗二升、以上

天候變調で
秋繭遲る
平附近の蠶況

石城販賣利用組合四倉繭市場は慶報ノ如く各方面當業者の懇請から開場期日を繰り上げ來る廿七日から秋繭取引を開始する事に決定準備を進めてゐたが目下用後連の天候不調其の他の關係で廿五六日から出廻り始めるものを豫想されてゐた秋繭が早いもので廿七八日頃から一般の出盛りは九月に入つてからしいので此の結果組合當局は最初の計畫通り三十一日から開場する事に期日變更を爲した

叱言を怨み
少女放火
幸ひ消し止む

石城郡植田町大字佐糠字川崎農蠶田富之助方座敷から午後六時半頃石漁業組合長長谷川寅次郎、副組合長吉田彌十郎の兩氏は石城郡販賣利用組合に元尾形農林主事を訪れ具體的方法につき意見を求めたところ人に贊成これが實現に努力することとなつたので近く四倉販賣購買組合を設立する運びになつた從來の百餘の販賣組合はいづれも農業者を主体としたものであつたが同組合は各業家を主体としたものでその利用方法も簡單有利に利用し得る組織なので設立の曉は一般に普及される相當の好成績を擧げ得るものと各方面から多大の期待を受けてゐる

漁業家相互出資で
購買組合を組織
郡利用組合でも乘氣に
事業方法具体化

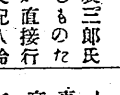
石城郡四倉漁業組合では相互の利益を計るべく過般から販賣購買組合を設置すべく計畫中であつたが愈々具体化したので去る二十日同漁業組合長長谷川寅次郎、副組合長吉田彌十郎の兩氏は石城郡販賣利用組合に元尾形農林主事を訪れ具體的方法につき意見を求めたところ人に贊成これが實現に努力することとなつたので近く四倉販賣購買組合を設立する運びになつた從來の百餘の販賣組合はいづれも農業者を主体としたものであつたが同組合は各業家を主体としたものでその利用方法も簡單有利に利用し得る組織なので設立の曉は一般に普及される相當の好成績を擧げ得るものと各方面から多大の期待を受けてゐる

子鍬倉神社の
新規寄附
區長會で協議

石城郡平町縣社子鍬倉神社は工費六萬圓、改築をなすことになり御工事中約八分通りま工事は進んだ、所が近來財界の不況が基因して約二萬圓の寄附金が集まらずために工事は一時中止のやむなきにいたつたがこれが改築委員並に區長關係者の協議百出の有樣だつたが結局更に一萬圓を新規寄附募集することに決まつた

表戸を破り
鍋を盜む
好間の賊逮捕

東白河郡宮本村大字百目木生れ當時住所不定無職遠藤久治右工門（三七）は昨廿日午後三時半頃好間村大字北好間字板木澤高木勝三方の留守に表戸を押破つて忍入り鍋一ケ外數點を窃取逃走せんとしたのを密行中の同村駐在高子巡査に逮捕本署に引致嚴重取調を受けた結果去る八日磐崎村小野田炭礦合宿所に忍入り縮緬兵子帶一本代七圓を窃取したのを手始めに郡下各地で前後數回に亘り窃盜を働らいてゐた事を自白した



令けふは 口百姓一 れた輕の惡 接の竹ボラのような聲で少し物騒だが、大きな聲で叫ぶといふので、バカ騷ぎの宴會にはアレで三人前ぐらゐの能率があがるとサイレンた輕なんて呼ばれて評判は好いが、寢屋の睦言が三軒隣まで聞へると、料理屋の方にはウケがわるいとは同事も一得一失のものサネ◆このお輕はナニを感すつたか、浴びるように飲んだ酒をやめて、ビールなら酒ぢやないと勸められても「アリコの入つたものはアタシ一切飲まないの」と自分がアルコールを覺へ違へてゐながら「アナタ英語で前後數回に亘り窃盜を働らいてゐた事を自白した

社告
營業部員　一名
廿歳以上卅五歲以下の活動家を至急募集す
本人履歷書持參午前中來談あれ
磐城新聞社

時言
平町民の体育大會、愈々十月初旬に決行、婦人選手の角力、八十才以上高齡者の二人三脚なぞも面白かろう

□
農村救濟の安全策に多角的經營方法を奬勵す、どうせの序で百性にも大工や左官の副業を授けたらどうだ

□
盆提灯辭退の聲に脅かされた岐阜提灯、今度はロソクと攻守同盟をつくり、大いに佛の崇りを宣傳したら如何

□
雨あがりの殘暑毎日九十度内外、俄か炎天で照るが御大典の記念事業として神社の昇格を行ふこと

□
多数の提灯を贈らして